

中山間地域における担い手を中心とした鳥獣被害防止対策

いわき農林事務所農業振興普及部

1 取組の背景・概要

(1) 集落(地域)の現状と課題

○対象集落 いわき市遠野町上根本白坂地区

○現状

- ・集落の場所:いわき市の南西部、阿武隈高地に位置する中山間地域
- ・農用地面積:10ha、農家7戸(兼業農家6戸、専業農家1戸)
- ・集落の鳥獣被害状況:水田を中心にイノシシによる食害及び畦畔掘削
- ・畦畔除草等の共同活動はあるが、鳥獣被害防止対策は取組なし

○課題

- ・イノシシの侵入経路が不明で、効果的な侵入防止対策の取組が困難
- ・電気柵の維持管理は集落内の一部の生産者以外の協力を得ることが難しいことから、作業負担の軽減が課題となっていた。

(2) 取組の概要

- ・集落環境診断の実施(平成30年度～令和元年度)
- ・センサーカメラによるイノシシ出没状況調査(平成30年度～令和元年度)
- ・被害ほ場への電気柵の試験設置(平成30年度～令和元年度)
- ・勉強会開催による住民の対策技術の習得・意識の向上(平成30年度～令和元年度)

イノシシの食害により
収量ゼロ
(平成29年度)



図1 モデル集落ほ場図(青)



写真1 集落環境診断後に今後のイノシシ対策を検討(平成30年度)

2 取組の成果

(1) 成果

- ・イノシシ被害面積が減少した。
平成29年度:13a→平成30年度、令和元年度:ほぼなし
- ・電気柵の共同設置が開始された。
- ・出没状況調査結果を基に、リスクの高いほ場から対策を進める方針を決定した。

(2) 残された課題と今後の対応

- ・侵入防止柵の維持管理作業の省力化に向け、ワイヤーメッシュ柵の試験設置を行い、コスト及び作業時間について電気柵と比較する。
- ・ほ場ごとの対策を地図化し、集落内で共通認識を図る。
- ・大規模稲作経営体の農作業体系に合わせた、柵設置及び維持管理の年間スケジュールを作成する。

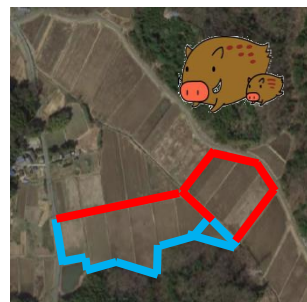
(3) 成果が得られた要因

- ・イノシシ被害発生初期に電気柵の設置を行うことで、被害の拡大を抑えることができた。
- ・専門家による適切な指導により、鳥獣被害対策の基本的な知識の習得及び意識の向上を図ることが出来た。



電気柵設置以降、イノシシ被害はなし

写真2 設置した電気柵(平成30年度)



集落北部の山林からイノシシが侵入

—平成30年設置
電気柵
—令和元年設置
電気柵

図2 電気柵の設置状況

3 集落代表者及び市町村の意見等

○集落代表者の意見

維持管理の作業負担が大きい場所や、山際等の電気柵が破損しやすい場所など、部分的にワイヤーメッシュ柵を設置するとともに、管理しやすい場所や人の通る場所では電気柵を設置するなど、使い分けをしていけば、より効率的にイノシシ被害を防ぐことが出来ると考えている。

○市町村の意見

これまでいわき市としては、主に電気柵の導入を支援してきたが、維持管理の作業負担などに課題があることは把握している。そのため、ワイヤーメッシュ柵の試験設置の結果を参考にしながら、対策を検討したい。